



平成16年3月期 第3四半期業績の概況（連結）
および業績予想の修正（連結・個別）

平成16年2月20日

会社名 株式会社 エスイー (コード番号：3423 登録銘柄)
(URL <http://www.se-corp.com/>)
代表者 役職名 代表取締役社長
氏名 森元 峯夫
問い合わせ先 責任者役職名 経理部長
氏名 塚田 正春 (Tel：03-3340-5500)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結 : 無
会計年度における認識の方法との相
違の有無

2. 平成16年3月期第3四半期業績の概況（平成15年4月1日～平成15年12月31日）

(1) 売上高

	百万円	%
平成16年3月期第3四半期	6,294	(-)
平成15年3月期第3四半期	-	(-)
(参考)平成15年3月期	9,370	(1.7)

(注) 1. 記載金額は当該四半期までの累計値であり、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. パーセント表示は前年同四半期（前年）比増減率を示しております。

3. 当社グループでは当第1四半期より四半期業績の概況の作成を開始したため、平成15年3月期第3四半期の売上高及び前年同四半期比増減率につきましては、記載を省略しております。

[売上高に関する補足説明]

第3四半期の当社グループを取り巻く経営環境は、公共投資における国・地方の予算状況を如実に反映した厳しい状況で推移いたしました。月例経済報告（内閣府）からも判るように、平成15年度の「公共機関からの建設工事受注額」「大手50社の建設工事受注額」「公共工事請負金額」「公共工事出来高」のいずれにおいても、11月までの毎月の前年同期比は減少でありました。

このような市場変動の影響を受けると共に大型物件の工程遅れもあり、当社グループの売上高も予想以上には伸びず、第3四半期の売上高は6,294百万円（計画比545百万円減少）と当初の計画を下回る結果となりました。

分野別には『環境防災事業分野』は4,619百万円（計画比330百万円減少）でありました。この分野での減少要因は、主力製品である「永久アンカー」において大

型物件の工程遅れがあったことによります。『社会インフラ事業分野』は1,557百万円（計画比195百万円減少）でありました。この分野では「F型ケーブル」が堅調であったものの、「FUT型ケーブル」で大型物件の工程遅れがありこの影響で減少いたしました。

なお、当該四半期における分野別の受注及び販売状況は次のとおりであります。

受注状況

セグメントの名称	分野	受注高	前年同 四半期 比増減 率	受注残 高	前年同 四半期 比増減 率
建設用資機材の製造・販売	環境防災	百万円 4,866	% -	百万円 896	% -
	社会インフラ	1,548	-	279	-
	その他	117	-	-	-
合計		6,532	-	1,175	-

（注）1．受注高は当該四半期までの累計値であり、受注残高は当該四半期末の残高であります。記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2．金額は販売価額によっております。

3．上記金額には消費税等は含まれておりません。

4．当社グループでは当第1四半期より四半期業績の概況の作成を開始したため、前年同四半期比増減率につきましては、記載を省略しております。

販売実績

セグメントの名称	分野	販売実績	前年同四半期比 増減率
建設用資機材の製造・販売	環境防災	百万円 4,619	% -
	社会インフラ	1,557	-
	その他	117	-
合計		6,294	-

（注）1．販売実績は当該四半期までの累計値であり、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2．金額は販売価額によっております。

3．上記金額には消費税等は含まれておりません。

4．当社グループでは当第1四半期より四半期業績の概況の作成を開始したため、前年同四半期比増減率につきましては、記載を省略しております。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象
該当事項はありません。

3. 平成16年3月期の業績予想(平成15年4月1日～平成16年3月31日)の修正
平成15年5月23日付「平成15年3月期決算短信(連結)」及び同日付「平成15年3月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

(1) 連結業績予想

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
今回発表予想(A)	9,240	355	183
前回発表予想(B) (平成15年5月23日発表)	9,700	575	294
増減額(A - B)	460	220	111
増減率	4.7%	38.3%	37.8%

(参考) 1株あたり予想当期純利益(通期) 23円31銭

(2) 個別業績予想

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
今回発表予想(A)	9,168	315	147
前回発表予想(B) (平成15年5月23日発表)	9,500	570	291
増減額(A - B)	332	255	144
増減率	3.5%	44.7%	49.5%

(参考) 1株あたり予想当期純利益(通期) 18円73銭

[業績予想に関する定性的情報等]

通期の業績につきましては「売上高に関する補足説明」でも触れましたが、公共投資を巡る国・地方における予算削減および大型物件の工程遅れによる影響が第4四半期においても継続し、当社グループの経営環境は今後も一段と厳しさを増すものと思われまます。

さらに、このような経営環境のなか当社グループは製品・技術の高性能化による市場での優位性を確保するため、「真空グラウトシステム」をはじめ「タイプルアンカーM型」「アンカーモニタリングシステムFBG」「KIT受圧板」等の開発・拡販に努めておりますが、公共事業の性質上この成果が業績に現れるまでには時間が必要とされているため、通期の連結および単体の業績予想を上記のとおり修正いたします。

[当社グループの四半期業績の特性]

当社グループは建設用資材のエンジニアリングメーカーとして、土木工事を中心とした公共関連工事に対して、コスト構造改革をはじめ、公共事業改革のニーズに応えるべく、子会社『株式会社アンジェロセック』を先導とした提案型の事業運営にウェイトを置いた活動を行なっております。

このため、経営成績は公共投資の動向に影響を受けると同時に、業績は下半期に偏る傾向があります。従いまして、今期の業績予想におきましても第1～第3四半期に比べ第4四半期のウェイトが高い業績予想となっております。

[業績予想に関する留意事項]

上記の予想につきましては、本資料作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。